

# すずめ

フォト劇場 (35)

写真が生まれるものがたり

マスク取るわれの気配に飛び散らふ公園スズメは  
忍びの化身  
高橋由喜子

子供の頃絵本の雀も庭に来る雀も大好きだった。別れた父の作を新聞歌壇で見たのは十三の秋。ふくら雀を詠んでいた。母に言えないまま口ずさむようになり半世紀を超えた。東京にも雀がいると実感した秋を思い出す。

刀鍛冶の高宗さんが住みし谷戸 その冬木で老  
いすずめ言ふ  
土屋美代子

雀は昔ばなしや詩歌、絵画にしばしば登場して身近な野鳥として親しまれてきた。近頃その数の減少が危惧されている。新築の家屋に軒がないのも原因のひとつらしい。自然界の生き物との共生できる世を考えたい。



春の野鳥観察教室 YouTube すずめが減った理由など聞く  
清水佑太郎

『野鳥写真図鑑』では、野鳥の鳴き声を聞くことができる。「成鳥」と「ヒナ」の二種類の声があり、「成鳥」は聞き馴染みのある「チュンチュン」。ヒナの方は「シリシリ」と鳴くことを知った。春が楽しみだ。

冬の陽が注ぐ希望に満たされてふくら雀は羽を休める  
内山真由美

渡りの習性を持たない雀は、寒さの厳しい冬も生まれた土地に残り、わずかな餌をとりながら脈々と命を繋いでいます。その寿命は二年未満とのことです。過酷な環境に生きる雀に訪れたささやかな幸せを歌いました。